

第5回 橿原市総合政策審議会 議事録

日時：令和2年2月3日（月）

午前9時30分～

場所：橿原市役所 本庁4階

第1会議室

<出席者>

- 委員：東委員、石川委員、大城委員、尾田委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、土井委員、中澤委員、久委員、牧野委員
- 市：福西総合政策部長、山風呂総合政策部部長心得
- 事務局：西村総合政策部副部長、中井企画政策課長、池田企画政策課長補佐、谷本統括調整員、友井係長、八田主査、杉本主査、中尾主査、大前主査

1 開会

2 議事

○橿原市第4次総合計画等の策定スケジュールについて

事務局 (資料説明)

久会長 ありがとうございます。ただ今、ご説明いただいたように、少し時間を掛けさせていただいて、より充実させたいということでございます。委員の皆さまには足をお運びいただく回数が増えてご足労をいただくことになろうかと思いますが、いかがでございましょうか、何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。それではちょっとお手間を掛けることになろうかと思いますが、時間を掛けてしっかりと策定させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○橿原市第4次総合計画 基本計画 現状・課題について

久会長 続きまして第4次総合計画の基本計画、現状・課題についてということでお諮りをしたいと思います。これもまずは事務局から説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

事務局 (資料説明)

久会長

ありがとうございました。ただ今のご説明でも2段構えになっておりますけれども、まず前半部分です。資料の2-1に相当する部分ですが、市長の施策とも絡めながら、もう一度、それぞれの項目のパッケージのやり方を変えたということがございますが、まずはこの資料の2-1のそれぞれの柱への理解のところでは何かご質問とかご意見はございますでしょうか。ちょっと収まり悪いなっていうところも、また詰めていく中で、組み替えがさらに起こるかもしれませんので。

前川委員

スポーツの括りなんですけれども、立場としては櫃原健康スポーツクラブというところのクラブマネージャーをしております前川と申します。スポーツという言葉が非常に扱いとしては難しい言葉になってくるのかなというふうに考えておまして、ここで今、項目の6に挙げていただいているスポーツは文化の中のスポーツということで取り扱っていただいているので、これは一般的な取り扱いかなと思うんですけれども、弊団体、健康スポーツクラブという名前を付けておまして、スポーツの中には、いわゆるチャンピオンスポーツと健康スポーツという形で仕分けすることができるのかなというふうに考えております。そうすると、この6項目の中の健康スポーツという部分がちょっと表現できてないのかなというふうに考えます。保健でもなく、健康づくりでもなく、健康スポーツっていう分野があってもいいのかなというふうに考えておりますので、ちょっとその辺りご検討いただければと思います。

久会長

ありがとうございます。スポーツに限らず、おそらく1つの内容が複数の項目に入るっていうところもたぶん起こるだろうなということで、今の前川委員のご指摘は、スポーツには大きくは2種類あるので、健康スポーツも含めて今の6番のところに入れるのか、あるいは健康スポーツは7番の健康・医療のところに入れるのか、いずれにしてもどこかに入れないといけないというような内容でございますので、その辺り、6番に入れたほうがなじむのか、7番に入れたほうがなじむのか、また事務局のほうでも担当課とともにちょっとまた課題として考えていただければというように思います。他はいかがでしょうか。それではまず、先ほどの前川委員のお話はまた担当課も含めて検討いただくとして、他もたぶん書いている内容でいろいろあちらこちらという話になってくるかもしれませんので、その段階でまた項目のやりとりをやらせていただくこともあろうかと思いますが、取りあえずしばらくはこの資料の2-1に紐付いて進めてまいりたいと思います。それでは資料の2-2でございます。先ほど説明にありましたように、まずはこの現状・課題をしっかりと固めて、それに合わせて取り組みをやりたいので、委員の皆さま方にはもう一度、現状・課題の抜け漏れ、それからその内容のチェック、こういうことをやっていただきたいなということ。それからもう1つは、取り組みに向かってそれぞれの委員の皆さまが思ってもらってらっしゃることを事前にお聞きをしたいということでございます。特に全国で先進事例が走っていますので、こんなことが櫃原でもできないかなということとか、あるいは逆に今、全国ではないんだけど、櫃原で先進的にこういう取り組みができないだろうかというような、そういうお話でも結構です。この取り組みに関しましてはこれか

ら考えていくことになりますので、ぜひともアイデアとかも含めて、さまざまご意見賜ればということでございます。現状・課題、そして取り組みに対する皆さま方からのご意見、アイデアについてしばらく時間を掛けて意見交換をさせていただければと思います。ご質問でも結構でございます。いかがでございましょうか。どうぞ。

大城委員

大城です。施策分野の3番、子育て・子育てのところの現状課題2番のところに、在宅での子育てに不安や孤独感を持つ人への支援として、ファミリー・サポート・センター事業をはじめとした地域での支え合いによる切れ目のない支援とあるのですが、ファミリー・サポート・センター事業が橿原市の方でどの程度、充実しているかがちょっと分からないのですが。他の市町村だとかなり支援をする側の確保に課題を抱えていて、ファミサポをやっているといいつつ、実際にはもう開店休業状態のところも結構あるので、その辺りの現状がどうなっているのかを教えていただきたいのと、それから孤立する保護者の支援として、地域子育て支援拠点事業について触れられていないのはなぜかなという疑問を持ちましたので、その辺りをお願いしたいと思います。

久会長

事務局で分かる範囲で結構ですので、いかがでしょうか。

事務局

大城委員からのご質問ですけれども、まずファミリー・サポート・センター事業につきましては、体制は他の自治体と変わらないような体制を取らせていただいているところがあります。ただ、いわゆる支援する側、子育て世帯に対して手助けをしていただける方が不足しているかどうかというところについては、現状、事務局の方では把握させていただいておりません。その辺り、またヒアリングの中で確認させていただいた上で、また現状・課題の方、もし変えなければいけない部分があれば変えさせていただければと思います。あとは地域子育ての部分なんですけれども、そこについては現在、担当課の方で体制づくりをしている状況でありますので、その辺りもまたヒアリングをした上で、また修正する部分があれば修正させていただければと考えております。以上です。

大城委員

今申し上げたのは、やはりいろんなところでファミサポが結局、支援者がいなくて、支援してほしい人はたくさんいるんだけど、それが結局うまく動いていない、そこをどうするかというのがすごく大きな課題なので、そのファミサポがここにバンと出てくるのに非常に疑問を持ってしまったということです。

久会長

ありがとうございます。またその辺りは担当課とも議論していただければと思います。私も今、子育て・子育てのところを見ていただいておりますので、先ほどのファミサポ事業の後ろのところの切れ目のない支援って書いてありますが、何を切れ目なくしていくのかっていう内容が書き切れてないので、ここら辺をもう少し、今、切れてる状態から切れ目のない状態に何を繋げていくのかというところがより分かるようになったらいいし、その取り組みもそこから導けられるのかなというふうに思います。

今、私がお手伝いしている大阪、茨木市では日本版ネウボラといって、1人の女性の方を妊娠から出産、子育て・子育てまで一貫してつなげて支援をしていこうというシステムをこれから構築していこうってということで、施設もワンストップで面倒を見られるような形にしつつ配置もしていくってということもやってますので、橿原でどこまで突っ込めるかっていうことも含めて、切れ目のないっていうのが何をつないでいうのかってということと、それに対してどういう取り組みが橿原は踏み込んでできるのかっていうところもまた投げ掛けていただければというように思います。

大城委員 今の会長のおっしゃったことと重なるんですが、日本版ネウボラの子育て世代包括支援センターが橿原市で設置されている？

事務局 今現在はございません。

大城委員 まだですか。そしたら子育て世代包括支援センターはやはり切れ目のない支援っていうのを前面に打ち出して、いろいろなところが設置を進めているので、それを将来的にどうするかも含めた内容を入れていただければなというふうに思います。

久会長 ありがとうございます。他に、どうぞ。

佐伯委員 奈良医大の佐伯です。この資料2-2についてなんですけれども、1つ全体的な点について意見を述べさせてもらいたいと思うんですけれども、政策の大きな柱について少し具体的な課題とその手段を提示されて、右側にそれに対する取り組みというふうなことを書かれているんですけれども、1つ1つの課題はかなり抽象的なものになってしまうと思うんですね。それで、これをご覧になった市民の方は、これについて本当に取り組んでもらえるんだろうか、あるいは各市民の方が感じている課題がここに含まれているのかということについて、少し不安が残るような表だと思うんです。ただ、具体的なことまで書くのは無理だと思うんですが、せめてどういった指標を使ってこの政策がうまくいったかどうかを評価していこうという方針なのかでありますとか、現状の課題をどういった指標で認識しているのかってというような代表的な指標を、そんな細かい指標は無理だと思いますが、どういう統計指標を用いてこの課題を認識しているだとか、どういった指標を用いてその課題が、例えば5年後にどうなったかを見ていこうという方針かというのを、本当に幾つかでいいですので、書かれてはどうかというのが私の提案です。

例えば3ページ、資料2-2の健康・医療の面ですけれども、一般的に医療の統計でいいますと、例えば死亡率という指標はもう全国どこでも入手可能な統計になります。そうすると、橿原市では、がんで亡くなる人は全国と比べて多いのか、それとも全国並みなのか、少ないのかということは人口動態統計の死因を見ることが書かれれば、それで評価しますということになると思うんですね。本当はこれを各科別に、じゃあ現状は胃がんの人が多いですので、5年後には胃がん死亡率何%減を目指しますとかいうのが将来的に出れば

いいんですけど、ここでそこまで出す必要はないと思うんですが、例えば死亡統計を見て、これを改善することを目指すんだというようなことを書くのか、いや、これはもう死亡についてはあまり重視しないから要らないと。

そうすれば、もう一步、福祉の面になりますけども、4ページの高齢福祉のところ、例えば介護度別の、介護を受けている人が人口当たり何人いるのか、あるいは高齢者の人口当たり何人いるのか、その中で介護度の高い人の割合が多いか低いのか、これが全国と比べてどうか、こういったものが指標になると思うんですけれども、そういう代表的な指標を、例えば右側の取り組みに、これを見て取り組んでいくというようなことを書かれると、市民はこれについてやってくれるんだというような実感が得られるのではないかと思います。これはもう意見です。よろしくをお願いします。

久会長

ありがとうございます。先ほどの佐伯委員のお話はおそらく次の話題の政策の土台とも絡んでいて、健康・医療の分野だけではなくて、いわばエビデンスベースというんですか、きちんとデータとか根拠に基づいた政策形成をするというのがこれからの政策で一番求められてるものですよ。今までは、生駒市なんかも総合計画でもその辺りを書き込んでるんですけども、今までの経験とかに基づく政策づくりではなくて、ちゃんと客観的なデータ等に基づく政策づくりということをやっていくということになりますので、これがしっかりできれば、たぶん全ての項目に関して先ほどのご指摘は受けられるようになってくるかなと思います。いかがでしょう。

事務局

先ほどの佐伯委員からのご指摘なんですけれども、まず、取り組みがかなり抽象的であるというところなんですけれども、取り組みの具体的なところというのが、この基本計画の下に実施計画というのがございますので、その実施計画というのを毎年、各課の方で作っていますが、そこで具体的な取り組みを書かさせていただきます。それはホームページ等で公表させていただくものになっておりますので、そちらは市民の皆さまにご覧いただけるものとなっております。

次に指標のところなんですけれども、現在、指標につきましては、前回の審議会でも案を出しております、各施策分野につきましては、各課の方に目指す姿というのを書いていただいております。指標といたしましては、その目指す姿になっているかどうかというところで市民アンケートを採らせていただいて、それが計画の当初、計画の中間、計画の最終の計3回ぐらい採らせていただいて、実際その施策ができていますかという内容で行いたいと考えております。実施計画部分につきましても指標、数字に基づいた資料を使わせていただく予定をしております。以上です。

久会長

またこの辺りは事務局で詰めていただければと思います。他はいかがでしょうか。どうぞ。

清水委員

これ例えばなんですけれども、6ページのところの15交通というのと、それから16の道

路・橋梁・河川というのを比べてみると、15の方は課題が非常にたくさんあって、取り組みがちょっとだけという感じですので、逆に道路・橋梁・河川のほうは課題が少なく取り組みがすごくいっぱい、たくさん書いてあるという感じなんですよ。それぞれバランスというか、こういう感じで、わりあい前半の方はそうじゃなくて、左、右で対応している感じがあるんですけど、少し変かなというのがあります。

具体的に少し申し上げるんですけども、これは左側の課題のところ、交通と、それから道路・橋梁・河川のところは特にそういう感じがするんですけども、前半の方は非常に、生活とみて市民の方が分かりやすいというか、どういうことなのかというのが分かるような感じの課題が多いんですけど、この交通とか道路のところになると、市民の方の生活とかそういうことから見てどうなんやろうかというのはこの課題では分かりにくいんじゃないかなと。

先ほどご指摘のように、抽象的かどうかということもあるかとは思いますが、もう1つは、生活に置き換えたときにどれぐらいそのことが関係するのかが、この交通とそれから道路・橋梁・河川のところの書き方が分かりにくいのが多いという気がします。この右側の取り組みになると、特に交通の上側のところはあまり生活がどう変わるかというのは分かりにくいですよ。もうちょっとなんかあったほうがいいんじゃないかなという気がします。

ただ、多分、中々無いのでこうなったんだと思うので、少し申し上げますと、例ということで申し上げますが、帯広って北海道にございますよね。北海道の帯広でやってる取り組みに、これは市がやってるんじゃないんですが、バス会社がやってるんですけども、例えば病院に行くにはどういうふうに行けばいいかという時刻表とかそういうのを出しておられるんですよ。買い物で、お店が並んで、このお店に行くとしたらこういうふうなバスに乗って行ってくださいとかいうのが書いてある取り組みを、やってるのは十勝バスというところがやってるんですけども、そういうような取り組みもありまして。

それから道路の方もちょっと申し上げますと、これは新潟県の見附市ですけども、歩いて欲しい道路に花を植えていとか花を飾っていくというような取り組みをされて、それにたどって歩いていくと、例えば健康づくりの場所があるとかそういうのをしていたりしますので、少し生活で見えるような課題と取り組みという形にしていただければいいんじゃないかなという気がいたします。

もう1つだけ申し上げさせてもらおうと、19番の生活環境のところなんですけど、これ、右側には書いてあるんですが、左側にごみの減量ということが出てこないような気がするんですけども、これはなんとなく右と左すれ違っちゃってる。左側はどっちかっていうと収集とかそういうのを的確にやっていきます的な感じになってるんですけど、やっぱりゴミの減量とかいうのは非常に大きな課題ではないかと思えます。

それから下の上下水道のところでは、これ老朽化って書いてあるんですけど、これはやっぱり具体のところを書くというよりも、老朽化の現状はここに入れたほうがいいんじゃないかなと。老朽化してなければ書く必要はないんですけども、最近、和歌山市で大変な騒ぎがありましたよね、10万戸ぐらいだったか断水すると。実は私ども JR 西日本も浜松線を

2日ぐらい止めるんじゃないかという、そういうふうなことまで検討したことあったんですが、非常にもう老朽化で大変な状況なんで、それは大変なんですよということは少し訴えられたらどうかという気がいたします。いろいろ言って申し訳ございません。

久会長

ありがとうございます。前半の部分のお話は交通、道路にかかわらずのご指摘かなと承ったんですが、誰にとっての課題かっていうのがいろんな形でぶれてませんかかっていうことかと思うんですね。総合計画は市民の生活を支えるという意味では、やはり市民生活で今どういう課題が起こってるかということを書き込んだ方が、市民にもお伝えしやすいのかなという、こういうご指摘だったと思うんですね。

ですから市民の今、生活としてどういう課題が起こっているかという問題と、それからそれを受けて動かすための事業者としてどういう課題を抱えているかっていう問題ですね。行政も事業者の1人だと思います。さらに行政のもう1つの役割は、それを仕組みとして回していくとき、いわゆるマネジメントとしてうまく回ってるかどうかという課題ですね。幾つかの課題に、うまくやれば整理ができると思いますので、そこを分かりやすい形で整理をお願いすると、先ほどの清水委員の話も受け入れられるのかなというのは思いますので、これは全体を通してまた検討いただければと思います。他、いかがでしょうか。

事務局

清水委員の生活に置き換えたらというお話なんですけれども、一応、立て付けとして、もともと作ってたのが柱1と柱2が人を対象にし、柱3と柱4っていうのはまちとかソフトのところを対象にしていますので、書きぶりがどうしてもこういう形になってしまい、分かりにくいというご指摘は、おっしゃるとおりだと思います。変えられるところがあれば担当課に聞きながら、もう少し市民さんに分かりやすいような形で変えていけたらと思います。

取り組みのところに関しては、これは10月に出てきたところから膨らんでいない状態です。今おっしゃられたような帯広市のお話でありますとか、似たような事例でいうと、マイルートフォーエーユーというauが作ってるアプリで、そこまでの道を登録したら途中でこんなお店があるよとかいうことを結構いろいろ教えてくれるっていうのがあったりとかで、そういう先進事例も、途中で調べたりしますので、そういったことといろんなことを担当課にすり込んで、取り組みとしてちゃんと出てくるような形にしたいなと思います。

それと、生活環境のところなんですけども、ゴミの減量化の話がありました。これは担当課のヒアリングの中で、ゴミの処理の体制としては3段階ありますということがいわれて、まず分別する、それから、それを収集運搬する、最後に処理をするという、こういう形の3段階があります。減量のところはいわゆる分別のところ、最初のところだということで、これは市民さんがまず分別をしてゴミを減らしていくという、そこになるということだったので、分別の部分については地球環境、ゴミを全体で減らしていきましようっていう、いわゆる資源のお話に近いかなと思いますので、地球環境のところにもその分別・減量のところを入れています。生活環境のところは収集・運搬・処理のお話を書いてあるというよ

うな形になっています。

久会長 はい、どうぞ。

佐伯委員 15と16のところも、おっしゃるとおりだと思うんですね。もともと普通の総合計画だとかこういう書き方になるのは間違いないと思うんですね。そこへ少し、それが生活にどう関わってるのかということを書き込むことで市の姿勢というか、それが見せることができるかと思しますので、できるだけ努力していただければと思います。

久会長 よろしくお願ひします。では、他はいかがでしょうか。はい、どうぞ。

佐伯委員 先ほどの指標の話なんですけれども、1点ちょっと補足させていただきたいんですけども。先ほどのご説明は指標、市民のアンケートを用いて、市民の方がどんなことを希望されているか、どのぐらい満足されているかというのを指標にして捉えられるというお話だったと思うんですけども、指標についてはわれわれ医療従事者もそうなんですけども、客観的な指標と主観的な指標があると思うんですね。例えば全国と比べて客観的な指標は必ずしも劣っていないのに、住民さんはそこをもっと改善してほしいと感じている。その時にじゃあどっちを優先するのかというのはさておいて、その数値が両方あるということがとても大切だと思っけています。

例えば市民の方はこういうことを希望されていますが、客観的な指標では檜原市は全国水準ですよということであれば、政策の上位にくるかどうかは、必ずしもこうでないといけないということにはならないんだと思うんですね。ですので指標を提示されるときには、できましたら客観的なものと主観的なものを両方組み合わせ、両方ともそろようように提示していただければいいかなというふうに思いました。

久会長 ありがとうございます。ちゃんと市民の方にもそういうデータをお示ししながらご理解いただくということも必要というご指摘かと思ひます。

事務局 ご指摘ありがとうございます。一応、今の第3次総合計画というのが主観的な指標を使っています。例えば健康の分野であると、休日夜間診療所の利用者数とかが今、設定されており、施策の範囲が広いので、なかなか具体的にピンポイントで数字の指標を置くのは、難しいというところで現在、主観的な指標を設定させていただいているというのが現状です。ご指摘いただいた点は参考にさせていただき、客観的な指標を入れることも考えながら、また作らせていただければと考えております。

久会長 どうぞ。

事務局 すいません、指標につきましては今、申しましたように、第3総合計画の中でも多くの指

標を使わせてもらってます。第3次総合計画、10年ほど前に作っております。その際に、行政の施策ってなかなか指標ベース、エビデンスベースで作っていなかった現状もあります。第3次総合計画からにおいては事務事業評価とか行政評価の観点から指標をきちっと見据えて、その指標の達成度をチェックしながら行政ではかりましょうというのが第3次総合計画の中で進められていった。

この第4次、次期総合計画を作る際には当然、EBPMの観点から政策を作っていく必要があるんですけども、定性的、定量的なもの、それから市民が実際に感じられる満足度であったりとかというものも大事にしていく必要がある。指標の考え方については、基本的には客観ベースで公的統計が出されている、そういう指標っていうのは、総合計画の下分野の個別計画の中でも当然、使われております。そういった指標と重ねながら、今おっしゃるように、最終的には市民満足度が上がるという方向へ持っていくつつ、公的統計の指標ベースではこうですっていうのも示しながら進めてまいりたいと思っています。以上です。

久会長

よろしくをお願いします。他はいかがでしょうか。それではまた後ほど、指摘のあった点、事務局の方で検討していただければと思いますけども、私の方から1点ですね。25番の「しごと」のところなんですけど、これは樫原市に限らず、まだまだ書き込めてないんじゃないかなと思ってるところですが、何が書き込めてないかという、いわゆる業を起こす起業ですね。その起業支援というのはこれからますます重要になってくるのかなというように思います。特に移住をされる方々も含めてなんですけど、従来のように仕事をもらうっていうやり方ではなくて、自らが積極的に業を起こしていくような、そういう土壤がおそらく40代以下の方にはかなり出てきております。

こういうところをうまく支援をしたり協働したりっていうことができないのかなというように思ってまして、それが4ページの11番の市民協働にもつながっていくんですけど、すぐにNPOという言葉が出てくるんですけど、私もこの30年近く、協働の分野でお仕事をさせていただいて、今、必ずしもNPOという法人格を取得しない、特に若い方々は株式会社であったり合同会社であったりさまざまな法人格をとりながら、仕事を生業としてこういう社会貢献をやっていこうということをやられています。そういうものがもう少し11番のところにも出てきてしかるべきかなあというように思っています。

ずばり言わせていただくと、市民活動団体にも、いわゆる世代間のギャップが出てきているのかなというのが私の率直な感想で。40代以下の方々というのは、生業としてこういう協働の分野で活躍をし始めていますし、そういう新しいムーブメント、動き、そういうものを市役所としてもどう受け止めていて、パートナーとして組んでいけるのかという観点もぜひとも必要ですし、さらに起業という観点では、この4月から小学校の学習指導要領が大きく変わりますが、起業教育というのが1つの大きな柱になってきますので、ひょっとすると学校教育も関係して、3段階で起業というのを、業を起こす起業というのを考えていただけたらと思います。

ちょっとだけ蛇足的な話になりますけど、実は昨日は兵庫県の阪神南地域というところで市民と高校生が集まってワークショップをやりました、10年後の未来を考えるというワ

ークショップをやったんですが、仕事分野でワークショップに関わっている高校生は、もうすでに起業の話をするんですね。就職ではなくて、自分で業を起す。10年後には私はそうなってるんだっていう、そういう夢を描いていましたので、もうすでに若い方々っていうのは、仕事っていうのは与えられるものではなくて、自分でつくり出していくものだっていう意識がかなり出てきておりますので、そこをどうやって市役所とか商工会議所とかも応援できるかっていうところで考えていただきたいなというように思います。よろしいでしょうか。

○橿原市第4次総合計画 基本計画 政策の土台について

久会長 では続きまして次の話題でございますが、第4次総合計画の政策の土台について。これもまずはご説明いただこうと思います。よろしくお願いします。

事務局 (資料説明)

久会長 どうもありがとうございます。今のお話は行政がどう動けばいいかという観点でのお話かと思えます。少し1ページ目の視点の1、2、3を私のほうから補足説明をさせていただこうかなと思ってるんですが、先ほど事務局からありましたように、2040年に向けて総務省が、各自治体がどのように動いたらいいのかということの方針、指針を報告書で出しておりまして、2040年っていうのは高齢者が最も多くなっていくっていう時期なんですけど、逆に人口は全体的には減っていくという中で、なんでもかんでも行政ができるということにはならないだろうということになってまして、じゃあどうするんですかということ提言が出てるわけですね。

少ない人材でどれだけのことのできるのかということで、1番のスマート自治体というのは、これからどんどんAIが進んでくるでしょうと。ですからAIとか機械ができる仕事はそちらにお任せをしておけば、人間が能力を使った仕事に専念できるでしょうっていうのがスマート自治体のへ転換なんですね。行政の中では、例えば申請書の受け付け、あるいは定型文書を作成するというような、いわゆる定型化した仕事ってとって多んですけども、こういうのはもう全部AIにお任せした方がいいでしょうねということですね。その裏返しでいうと、今までの機械でもできるような仕事はどんどん機械にやらせるので、働き方を変えていかないといけないということになっているのかなというのが視点の1ですね。

それから2つ目ですが、これからますます市民の方々へ協力をお願いしないといけない。いわゆる協働を進めていくことによって、行政だけがやるのではなくて、市民と行政、あるいは事業者が協働でやっていくことによって行政の移管をシェアしていただきたいということです。そのためにはネットワークづくり、つながりづくりのために、みんな集まる場所ですね、プラットフォームをつくっていくというのが行政の非常に重要な役割になっていくでしょうということなんですね。これがプラットフォームビルダーへの転換と

いうことになります。自ら仕事をするのではなくて、まずは集まって協議をする。話し合っていて、そこから協働が生まれてくるような、そういう場づくりをするのが行政の役割でしょうっていうのが2番目の話です。

3つ目、圏域マネジメントへの転換というのは、これは先ほどご説明しましたけども、橿原市は橿原市でいろんな施設とかサービスをフルセットで持ってます。明日香村は明日香村でまたフルセットで持ってます。大和高田市は大和高田市でまた全部フルセットで持ってるわけですね。こういうことが本当に効率的ですかっていう時代に入ってきた中で、もう少し広い範囲で、みんなで施設とかサービスをシェアしていきませんかというのが圏域マネジメントの役割ですね。こういうような考え方で、少し、少しどころかかなり大きく行政の役割を変えていきたいと思いますっていうのが提案として出ております。

二層構造っていうのは県と市ということになりますけども、市が困ってるんだったらもつと県も応援しましょうよということですね。県の役割はここまで、あとは市の役割ですよっていうようなことではなくて、県も市のいろんな施策を協力しながら一緒に回していく。あるいは圏域マネジメントのときはやはり県の役割というのは非常に大きいので、やはり県がある意味、プラットフォームビルダーになっていただいて協議をする場所をつくっていただくとか、県と市ももう少し連携を図っていきましょうというのもこの中に書き込まれています。

こういうのを前提としながら、橿原市がどのように市役所あるいは市役所職員として動いていけばいいのか、この10年間でどこまで動き方を変えていけるのかっていうところで書き込むのがこの資料の3の部分でございますので、ご質問でも結構です、ご意見でも結構ですので、さまざまなご意見を賜ればと思います。まだまだこれ、煮詰まってない状況かなと私は思っておりますので、皆さんのご意見も踏まえながら、またより分かりやすい展開ができればと思っております。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

前川委員

先ほどのスポーツのところと関係してくることなんですけれども、圏域マネジメントっていうのが非常に重要なのかなというふうに考えておまして、そうすると、スポーツとか健康づくりのための活動量を増やすとかっていうのが1つにくられていくとそこがミッション的な役割をして、それを達成するためには何が必要かっていうところを割り振っていくと今の縦割り行政ではなかなか説明しづらい部分も出てくるのかなというので、ミッション的なものをバンと掲げていただいて、そこからみんなで知恵を出し合いながら、組織づくりから考えていくっていう方向性も1つかと思います。

ここで1つ事例としてご説明させていただければと思っていることがありまして、それは、先ほどプラットフォームビルダーのところ県と市の連携っていうようなことも掲げられておりましたけれども、実際に弊団体が担当している健康ステーションという場所がありまして、これは県の健康推進課の方の事業として弊団体が業務受託をして5年間、健康ステーションの業務を担当してまいりました。どんなことをしているのかということが、ちょっと説明の中では分かりづらいので、もし許していただけるのであればチラシを持参しておりますので、よろしいでしょうか。

久会長

どうぞ。

前川委員

チラシの方を今、配布していただいておりますので、お手元に届いたら見ながら説明のほうをさせていただければと思うんですけども。基本的には活動量を上げて健康づくりをしていこうという大きなテーマに乗っかって行っている事業です。場所的には、橿原の近鉄百貨店の2階に設置されているところにいるいろいろな健康測定器を置いて、そこにちょっと目を向けていただきたいというような思いから健康測定器を置いているんですけども、その中で、ブルーになっている方の一番下のところで、活動量計を皆さんにお貸しします。その活動量計を持ってご自身の日常の活動量がどんなふうになっているのか見てみませんかというような事業をしております。

それで現状を把握した上で、さらに裏面に出ている歩数と中強度の割合から、横のほうに5段階に分かれているような病気、生活習慣病を主に掲げてありますけども、そういった疾病予防、改善が可能になるという研究に基づいたことを皆さんにお伝えしながらやる事業です。これはスポーツではないんですけども、身体活動を助長するような活動になりまして、それがエビデンスに基づいているので、目標を持って日々の生活を進めながら、ご自分の力で健康づくりをしていただくというような取り組みです。

これは県が行っていて、こういったものが市とうまく連携できたら、さらにこの取り組みが拡大していくのではないかなと。そこを担当する者としては歯がゆいような立場で今まで仕事を従事させていただいております。皆さんご賛同いただけるような内容ではないかなと思うんですね。自らの力で健康づくりを可能にしていくという。しかもそれは歩数、歩くというような活動と、さらにちょっと歩き方を工夫することによってさらにその効果が期待できるというような取り組みなので、まさしく活動量から健康づくりをというような取り組みであるんですけども、この活動量1つを高めることによって、いろんな効果が多方面に期待できるのではないかなというふうに考えます。

まちづくりにおいての、歩きやすいまちづくりということを考えていただけると、建築のほうの今後の取り組みについての1つの指針にもなりますし、先ほどもヒト・モノ・カネの停滞によって生産性が落ちてくるという、将来に向けて少し不安を抱えるような現状をどうやってみんなで打開していくかというときに、1人1人の活動量が上がることによって健康になって、それが、活動量が上がるということは外に出て動かないと活動量が上がらないので、経済を動かす力にもなりますし、生産性を高めるというような根本的な力になっていくのではないかなというふうに考えると、本当に活動量を高めるって一言で済んでしまうような目標かもしれませんけれども、それが大きな影響を多方面に及ぼすというようなことを考えていただけたらなというふうに思っております。失礼いたしました。

久会長

ありがとうございます。前半のお話は非常に重要でして、それが方針か、どちらになるかわからないんですけど、重要なご指摘をいただいたかなと私は思っています。というのは、従来は事業をまず考えて、事業の積み重ねでいろんなことを考えていたんですけども、そ

れを逆にしませんかということですよ。ビジョンとかミッションをまず考えて、そのビジョン、ミッションを達成するために誰がどのように動いたらいいかということを考えれば、いわゆる縦割りもなくなるし、連携・協働も出てくるはずなので、そもそも仕事の発想の仕方、ここを逆転しませんかっていうご提案なので、ここはとても重要なご指摘をいただいたと思いますので、またぜひとも、柱にするのか中に書き込むのかということも含めてご検討いただければというように思います。他はいかがですか。どうぞ。

清水委員

実は今、ご紹介いただいた健康ステーションの話にくっつけてちょっと申し上げたいんですけど、先ほど私、ちょっとご紹介しました新潟県の見附市の花のある道を整備していくってことなんですけど、実はそれは健康ステーションが終点になってるんです。健康ステーションに向けて、見附市もつくってございまして、そこに向けて行く道路を優先的に歩道とかを整備して、さらにそこに花とかをずっと作っていくことで、先ほどの活動ですね、歩いていただけるように、そういうふうな取り組みをしてるので、すごい、今のお話では健康の部局だけがお考えになるんじゃないかな、例えば道路整備とか都市計画とか景観とかをやっておられる方も、景観のためにみんなで協力していきましょうというふうな、そういうふうなことが、この中でいうと土台の6番の全体の最適化というのに当たるのかもしれないけれども、そういう、先ほどミッションという言葉を使われましたけれども、ミッションに向けてみんなが、市役所の中の各課が協力していくという、各部局が協力していくというふうなことも、この全体の最適化では必要じゃないかなと思います。

久会長

ありがとうございます。もう1つ、先ほど清水委員、前川委員の話を聞かせていただいて、こういうことも重要なかなと思ったのは、前川委員とか佐伯委員とかは健康づくりとか医療の方面の審議会にもご参画いただいていると思うんですが、その審議会の中でどういう、どのように話し合われているかというのがとても重要で、1つは、どうしても事務局側が投げ掛けて、それをたたいていくというやり方が多いと思うんですが、そうじゃなくて、それぞれの主体の方が、うちはこんなことをやってるよとか、やりたいんだ。それに乗っかって、いや、私はそれにこう組めるよっていうようなディスカッションができていけばいいのかなと。そういうプラットフォームをぜひともやっていただきたいし、そこに道路とかの部局の方とか道路を設置・デザインするような主体の方が入れば、よりそれが膨らんでいきますよっていうことかと思っておりますので、そこを読み取れるような文章化をしていただければというように思います。審議会のやり方も変えていこうよ、あるいはいわゆる懇談会みたいなものをどんどん増やしていこうよというふうな、そういうことが読み取れるような文章にしていいただければいいんじゃないかなと思います。他、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

東委員

東です。全体的なお話で、一応、視点1、2、3に応じて下の方針6を書かれてると思うんですけど、ヒト・モノ・カネの話はいいとして、それを今後どうするかという話でよく

いわれるのが、情報と技術と制度。この中の情報に関して調べてみると、結構、今の情報の使い方ってほぼデータみたいな話なので、EBPMを含めてデータはどうしましょうということなので、ちょっとデータと技術の視点が弱いと思います。

そもそも Society5.0 自体の定義が人間中心なので、この計画自体は合ってると思うんですけども、それを人でどうにもできないのでテクノロジーを使いましょうといってスマートシティといわれているという話なので、そういう流れの整理にさせていただけると、スマート自治体への転換も含めて整理できるかなと思います。

あと、プラットフォームビルダーということがありますが、最近、エコシステムビルダーといわれることが結構多くて、SDGs、持続させるんだったらプラットフォームつくって終わりみたいな、世界で維持しないと、どうやってエコシステムをつくっていくのかという話で、おそらくそこが多様な主体との協創とか、官民連携を新しいフェーズに移しましょうという話になれば官民融合みたいなものに近いんですけども。最近、市役所に民間人が転職するって、あらゆるところで行われているので、私が手伝っているところでいうと、こっちだったら生駒市ですか、民間人が倍率 100 倍超えて入ってきたとか、そういう形で多様な主体が地域経営するっていう動きになってますので、その辺りはストーリー的に意識されて書かれるといいかなと。

全体最適は、そもそも今、内閣府を含めた 1 つの方針ですので、これは問題ないと思います。その中で今後、さっきの技術とかデータとかの話で整理すると、前の議論であった資料 2-2 も結構いろんな課題がずらっとあるんですけども、ヒトの課題もあればアセットの課題、モノの課題もあります。それで、こっちの解決の取り組みみたいなところに、たぶんおそらく共通して全部テクノロジーは何かしら入ってくると思いますね。データも入ってくるでしょう。そういう整理をすると、粒度が結構バラバラであるので、それはそういう軸で、どうやって、人でどうしようもないので技術とかデータを活用しましょうという流れで整理されると、今のスマート化の流れには合うのかなと思います。そこから整理すると、教育も変わるんですね。これから STEAM 教育といわれていますけども、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、あとマスマティクス、数学ですね。それでデータ人材の育成とか。特にリベラルアーツは先ほど久会長がおっしゃられましたけども、スマートシティの教材をリベラルアーツにしましょうみたいな話は結構いろんな地域で出てきてまして、やっぱり基本的には自分のまちを課題はなんだということで、文化人類学的な観察から始まりますので、それで若いころからそういうリテラシーを高めて、必要なリテラシーを高めましょうという教育にしていくというところは先ほどの教育。そこからアントレプレナー教育とか起業家教育も基本的に課題解決能力を高めるという意味ですから、アントレプレナー教育は当たり前ということになっていくと思います。そういう流れで今後、こちらの体系の視点 1、2、3、方針 6 個と、この資料 2-2 とをもう少し整理していただくと粒度がそろうかなと思います。

あと、先ほどの歩く、健康ステーションの話は非常に重要で、国交省では「歩く」まちづくりといってますし、基本的に、ヒト・モノ・カネのカネのところですけども、今、内閣府で SDGs 金融というのを検討されてまして、最近では厚生労働省が未病対策に予算を

組み入れて、財務省にそれを加えて、もっと予算を積みとということで、未病、フレイル予防に関しては予算を大量に振ってます。

そういう意味では今後、1人1人が健康にならないと社会保障費がどんどんはね上がるので、これは市民も努力してくださいねという文脈で、私も今の話ってというのは、スマートシチズン化っていう。市民をスマートにしましょう、じゃないとスマートな自治体にもならないという話もあって、その辺りも市民に対するアプローチを、もう少し自分事ですよというような形で整理していただけると、行政が全部やってくれるものでもないので、やっぱり市民がある程度努力してる地域は生き残るという時代になってきましたよというメッセージはある程度、入れてもいいのかなと思います。

これはこれから、私は6万人都市とか消滅可能性都市も手伝ってますけども、やっぱりその危機感のところは一気にはい上がってきますので、その辺りは今後、10万人規模の自治体の中で競争が起こるでしょうから、そういう課題の点は、そういう生き残りも懸けてということで危機感がありながら、あと1つだけ加えると、最近、国交省とも話をしてるんですけど、課題解決型と言い過ぎて暗い世の中になってきているということで、どこの計画も課題解決というふうにお先真っ暗っぽくなって、ちょっと未来志向的なことを入れようよということで、さっきのスポーツも含めて今後、新しい産業もつくっていったら、ベンチャー支援とか、スポーツとかってどっちかといえばポジティブな話なので、そういう分野ももう少し強くしたらいいのかなとは思っています。以上です。

久会長

ありがとうございます。先ほどの東委員のお話をするならば、すごい乱暴な言い方をさせていただくと、これから行政運営で、人材ですね、人材育成。つまり自分で物事を考えて仕事が組み立てられるような、社会とか地域のニーズに合わせてできるような人材を育てていくことと、もう一方で情報政策ですね。この人材育成と情報政策の二本柱がうまく回っていけば、あとはもうおのずと回っていくよっていうのを私よく言うんですけども、そういう意味での情報政策が柱として出てきてないんですね。ここが今の檜原市役所の弱点かなというように思います。

情報政策はどこも、なんかコンピューターのお世話をする、あるいは統計データの処理をすることで止まっているんですけども、これからはもっと積極的に情報を活用しながら政策展開ができるような、こういう積極的な情報政策、それが私は1つの項目で情報政策が出てきてもいいぐらいのことかなと。そこまでなかなか思い切れないのであれば、先ほど東委員がご指摘のように、ここの土台の部分で1つの大きな柱として、やはり情報政策をきちんと位置付けていくっていうのも重要なことというふうに私も思いました。

牧野委員

私の方は担当っていうか専門なのは観光なんですけれども、この視点2と3の部分ですね、プラットフォームビルダーとか圏域っていうのは観光の方は実はすでにどんどん進んでまして、観光まちづくりなんていうのが言われているわけですけど、その中で出てくるのが観光プラットフォームみたいなのは必ず今出てくる1つの話題になっていて、この中で、全国でかなりの数が、新しいのを含めて出てきてるんですけども、必ず出てくるので皆さ

んご存じだと思うんですけど、DMO っていうのが出てくるんですね、デスティネーション マネジメント オーガニゼーションっていうんですけども、その中のやつでうまく回ってないんですよ、実のことを言うと。

なんで回ってないのかっていうと、先ほども会長の方からありましたけれども、ビジョンだとかコンセプトだとかそういうものができていない。それがなくてプラットフォームにいろんな人が来ちゃってるよっていう話になってるんで、そののところっていうのがなかなかできていないっていうところと、それを実はコーディネート、ファシリテートする人材が基本的にいないんです。東京だとか関西圏の大都市部にはそういう方たちはある程度いるんですけども、地方に行けば行くほどそういう人はいません。特に観光の分野でそういう人材育成を今までしてこなかったっていうのが弊害になってきてるっていう部分があるので、この辺のプラットフォームビルダーへの転換っていう部分では、やっぱり第一にそれをファシリテート、コーディネートできる人材育成、これが一番だと思うんですね。その辺のところっていうのを理解していただくことっていうのが一番だと思いますし、これをやる場合に、行政の方ってワン オブ ザ プレーヤーです。主体になるのではなくてワン オブ ザ プレーヤーだと思ってやらないとなかなかここは進まないのかなっていうお話になります。

それから圏域のマネジメントへの転換っていうのも、これも同じく DMO の中で、DMO には3種類、県だとかそういうでっかい単位のものがあり、それから地域圏のものがあり、それから市町村単位のもの3つのものがあるっていう形になって進んでいくっていうことなので、こちらの方も同じようにコーディネートする人っていうのが重要になってきます。当然、それを育てるための、観光の場合は公共施設などで観光資源だとか人だとかそういうものに、いろんなものになってくるんですけども、これも今までの観光の中の、こちらでいえば今井町だとか橿原神宮だとかっていうことだけではなくて、他の体験、体感ものとかいろんなものも入ってくるという部分になってきます。

それからそれを支える最低限のお金、ここでいう財政運営になるわけですけども、このお金っていうのも必要になってくるっていうことなので、その辺のところっていうのはどのくらいできるのか。それを支えるものっていうのが戦略的な情報っていう形ですよっていうことになってきますんで、この辺のところはどのくらい有機的に組めるのかっていうことと、今言っている各方針っていうのが、先ほどの現状取り組み、その他もろもろのところの各担当セクションのほうへ染みるかっていう部分と、それをどのくらい主体である市民の方たちに伝えられるかっていうのが、基本的にはこの辺の土台の一番のベースになるんじゃないかなと、土台の土台になるんじゃないかなっていうふうに感じます。

久会長

ありがとうございます。人材育成の話は私も先ほどもさせていただきましたけれども、プレーヤーとして動いてきた、要するに職員が、これからマネージャーであったりファシリテーターであったり、コーディネーターであったり、こういうように動ける人たちがどれだけ増えていくか。そのためにこういう人材育成のプログラムを当てはめていく。こういうことがたぶん方針1に書かれている内容かなと思いますんで、そこをまたしっかり書

き込んでいただいたらと思います。どうぞ。

事務局

さまざまなご指摘をありがとうございます。いろいろご指摘いただいた中で、やはり一番重要な部分っていうのが人材の育成の部分になるのかなというところでご指摘をいただいております。実は私もその部分は非常に重要だと感じさせていただいております。方針の1に人の育成のところを書かせていただいているのは、実はこの人材育成のところを一番、この5年間で力を入れていきたいというふうに考えているためです。

今、橿原市の職員はちょっと思考停止をしている部分が多々ございまして、まずその部分から変えていきたいという思いがございまして、方針の1にこの部分を掲げさせていただいております。今は幹をつくった段階ですので、ここからまた肉付けをさせていただきたいと考えておりますし、また人事のセクションとも話をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

久会長

ありがとうございます。どうぞ。

佐伯委員

奈良医大の佐伯です。プラットフォームとして今まで全て県がされた、市がされてたものを、土台づくりで、他の人に、ある部分をゆだねてみる、自由にやらせてもらうっていう場合、1つ市民から心配になるのは、今まで市が公平に担っていただいていたものを一般の人がやるようになったときに、ちゃんとその公平性が守られるのかとか、あるいはどの程度の規模縮小になっていくのかですね。

例えば市が最後まで誰かに預けずにずっとやっていただきたいことっていうのがあると思うんですね。それは他者と協働があっても、クオリティがどうなったのかということ把握していただいて、こうなってますと。例えば、ヒト・モノ・カネが少なくなったから、普通にいったらもうこのぐらいしかできなくなるという予想を立てて、それでこの部分を市民や他の人が担っていかないと、もうどうしても下がっていくという情報提供があれば、そこに参入してくる人は増えてくるっていう、今の情報政策の1つになると思うんですけども、それが参入して実行された時に、実際には今、このぐらいのサービスが提供される結果になっていると。前よりはやっぱり下がってしまった、あるいは維持された。

きっと、このヒト・モノ・カネが減ってきたら今現状を維持するのが大変になって、きっと市の方は今のキャパシティでもそれを維持しようとして頑張っておられると思うんですけど、やはりこれは無理ですと。しかもこの辺が無理です、あるいはこのぐらいになってしまいますっていうことを出していただいた時に、市民はきっと、私らも手伝ってここは絶対維持したいというところに参入するモチベーションが上がったりすると思うんですね。

なので、プラットフォームをつくる時に、それに関する情報提供をいただいたり、あるいはそのプラットフォームに乗って実施されたときの下支えですね、クオリティのチェックであったり公平性が担保されないときに介入することであったり、セキュリティを守るような仕事。最後にはやはり優先順位ですよ。公共に最後までやってもらいたい

ことっていうのがやっぱり市民にはあるので、ここは行政が最後までやりますと、その優先順位をやはり各分野で付けていただくことも必要になってくるのかなというふうに思います。

久会長

ありがとうございます。先ほどの佐伯委員のお話で言うと、実はもう福祉分野ではすでにこういう協働が、2000年の介護保険制度の導入から始まっているんですね。それまでは行政と、行政の委託を受けた社会福祉協議会が福祉サービスを提供してきましたけれども、2000年からはそれは全部、民間とか市民団体にお任せするっていうことになりましたが、一方で、じゃあ行政は何をしてるかっていうと、先ほど佐伯委員がおっしゃるような、1つは評価ですよ。それぞれの事業がちゃんと回ってるかどうかという評価側に回ったということですね。それとやはりきちんとしたサービスが地域に抜け落ちなく提供されているかどうかという、全体のマネジメントですね。もうそれはすでに2000年から福祉分野では始まっているわけですね。

それが全ての分野に求められていくことなんだよっていうご指摘だったと思いますので、先ほど言いましたように、行政の役割をどう変えていくかっていう中で、何が行政のこれからの役割なのかっていうことをしっかり見極めて、ここにも書いていただきたい。それを書かないと、下手するともう丸投げで、もう任せてしまっただけっていうようなことになってしまいますので、ここはしっかり文章の中に書き留めていただければというふうに思います。どうぞ。

東委員

今の点はすごく重要で、ひょっとしたらほとんどもう官民で、官民が一緒になって地域経営をしないともう無理ですっていうところは結構打ち出しとして重要で。なぜこれだけ民間人を自治体が採用するのか、兼業で自治体に民間人が大量に増えてるかっていう動きがトレンドでして、東京、大阪だったらもう完全に転職して、民間人が、それこそ宮坂副知事みたいな、ヤフーの会長を辞めて東京副知事になりますみたいな動きがありますけど、結構、今、民間の方で地方公務員になるのがはやりつつありまして、実は東京の方でも。私は浜松を手伝っていますけど、浜松でも兼職、週1の職員を採用、5人の枠でしたんですけど、倍率が100倍を超えまして、東京から結構、一流人材が移ってくるという。結構、民間の方もパブリックな経営に一部参画したいっていうような動きが、なんか妙なトレンドが出てきてまして、そこは日本だけじゃなくて、トロントも同じような感じで、データのことが分からないとか情報政策が分からない、それは仕方がないんですね。今、公共調達で情報セクションの調達しかやってなかったんで、民間でやってるような情報を、それこそインターネットビジネスみたいな世界とはほど遠いところでやってましたから、その辺りは全部、民間人が週1で入るとか、そこは2年間で転職してくるとか、結構、大きな人材流動が起こってますので。

そこは先ほど役所の中ではもうどんなふうにしても無理だっというところは、もう他も一緒でして、どれだけそういう民間の方との協働経営ができるのかっていうところに移っていますから、その辺りはかなり今後のスマート自治体への転換のところで、そこは官民連

携して地域経営しますので、官民融合して進めましょう、情報政策をというぐらいの書き方にしてもいいのかなと思います。これはこれから増えると思います。

久会長

ありがとうございます。方針1では、人材の育成って書いてありますけども、東委員は、いや、育成する前に外にいるいい人を採ってきたらいいんじゃないのっていう、そういう採用の話も含めて言ったので、この辺りもタイトルとか中身も考えていただければと思っています。ちょっと脱線もさらにしてるんですけども、事務局の打ち合わせのときに、今の事務局のメンバーはどういうキャリアをお持ちですか確認したところ、ほとんどがいったん民間に就職したっていうメンバーさんなんですね。学校を卒業してすぐに市職員になった方はほとんど、今の事務局はおられないっていうことです。

今、年齢制限の枠の中でそういうような転職をされてる方はおられますけども、東委員がおっしゃったように、もうすぐ年齢制限を撤廃した中で、もっと外部人材を市役所の職員として登用できるような、そういうシステム構築っていうのをできないんだろうかという投げ掛けでございましたので、また自治体等々で今後、受けていただければというように思います。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

情報提供をもう1つさせていただきましたら、道路整備の中で、今、長崎県は「道守」っていう制度をつくってるんですね。道路の監視業務を市民にやっていただきましょう、道を守るっていうふうに書きますけど。しかしそれは素人でできませんので、養成を長崎大学がやっていただいて、その研修を受けた方々に道守っていう資格を差し上げて、道路パトロールや道路管理をやっていただいている、こういうシステムも動いています。

清水委員のご所属のJRが国鉄時代に、昭和30年代に「橋守」っていう制度を持ってまして、全国津々浦々の鉄道の橋を全部、職員でチェックできないので、ご近所の方に橋守っていう形でお任せをして、ずっと橋の見回りをしてくださいっていうような、そういう制度を旧国鉄はお持ちだったんです。そういうような、その技術をお持ちの方っていうのは市民の中にもおられるはずで、そういう方々をうまく活用させていただいて、行政が今までやってきた仕事を一緒にやっていただけるような、そんな制度構築も今、先進的なところでは始まっていますので、また榎原市もご検討いただけたらと思います。

あとはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではまた、これもまだまだ書き込むことができる内容でございますので、お気づきになった点でまた事務局の方にお届けいただけたらと思います。

○榎原市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定状況について

久会長

それでは、今日予定しておりました最後の話題になりますけれども、今度は総合計画ではありませんので、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定状況につきまして、まずは事務局からご説明いただければと思います。よろしくお願ひします。

事務局

(資料説明)

久会長

ありがとうございます。私が成り代わってストレートに言わせていただくと、かなり苦戦をされてるということだと思いますので、皆さまの方からいろいろなアイデアとか応援メッセージとか、そういうのをいただければというように思っております。いかがでございましょうか。ぜひとも、これは売りにできますよとかというアイデアなんかも含めていただければというように思いますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

前川委員

しつこく自分の立場のことを主張するようで恐縮ではございますけれども、やはり医大の存在も大きいと思いますので、それと市と、県立医大ですから県と市の連携とかそういうことも含めて、健康づくりっていうのをすごく打ちだしていきやすい分野ではないかなと考えます。

先ほど、小さな取り組みではありますけれども、健康ステーションの存在も。実は健康ステーションって全国で初めて奈良県がつくったもので、健康ステーションには多くの視察が各県から来られておまして、今、横浜市なんかがすごく活動量計を、ポイントを置いて市民の活動量を把握するっていう動き、すごく大きく動いておられますが、実は奈良県に視察に来られて、活動量計のデータの集積の仕方なんかもいろいろ情報収集して帰られた結果、追い越されてしまっているような状況であります。発想は早かったんですけども展開が足踏みしている状況なので、これを一気に市の力でなんとかならないのかなと思ったりもしております。自分の方の立場の意見のように聞こえてはおるかもしれませんが、広い視野で立ってみても主張できるところではないかなというふうに考えております。

久会長

ありがとうございます。先ほどの前川委員のお話のように、もうすでに視察が入ってるよというような情報をお持ちでありましたらぜひともお出しただければと思いますし、それから、もうすでに橿原にたくさんの人たちを集めている何か魅力というものが、もう実績として出ているというのがあれば、ぜひともそういう資源を教えていただければというように思います。さらには、もうちょっと磨けば、これ日本全国から、あるいは世界中から人が集まるのにとというような、そういうアイデアなんかでも結構かと思えますが。どうぞ。

小西委員

1つお聞きしたいんですが、私、藤原京の近くに住んでおる者でございますが、現在、藤原京は世界遺産に向けての取り組みもされておると思うんですが、市としては今、どの程度の位置で藤原京についての取り組みをされておるかについてちょっと教えてほしい。機会があればまた地元の人にそういう情報を少しでも流せたらと思っております。まだできてなかったらできてないでいいですよ。でもこれから5年先、10年先になりますと、平城宮があれだけ大きな予算が投入されて立派なものがどんどん建ってくるけども、藤原京はただ、あの茶色い柱みたいなやつだけが何本も立っておるだけのことですので、もしできたら教えていただいたら、何年か先の観光にも役に立つんじゃないかと思いまし

て。

事務局

世界遺産登録推進に向けた動きについては、亀田新市長になられて、世界遺産登録推進に向けてより積極的に進めるということで、組織体系もスリムに進めていく、世界遺産に特化して進めていくという方針を出されました。

今、庁内の方ではそういう関連する部署とワーキングチームが結成されました。今回の審議会の中でもご意見が出てますように、これからは地域の方、市民さんとも一体となって、そういう登録推進に向けた協議が必要かと個人的には考えてるところです。

小西委員

ありがとうございます。地域の方はご存じのように今、秋はコスモス、春から花が咲くように現在、取り組んでおるわけです。ひいてはこれは地元の方がやっぱり世界遺産に向けての1つの土台として取り組んでおられることをご理解していただいて、できるだけ、5年先、10年先に立派な世界遺産ができることをわれわれとしてもお待ちしておりますので、どうかよろしく願いしておきます。

久会長

ありがとうございます。これも情報提供になるかどうか分かりませんが、先ほど小西委員がおっしゃった平城宮跡のいろいろ建物が建っているっていう話なんですけども、ユネスコはあれを喜んでないんですね。記録が残ってないのに勝手に誰かの想像で、さも古い建物らしきものを造っちゃったということかというと、ユネスコはあまり喜んでないということもお知らせしときたいと思います。

あと、石見銀山が世界遺産登録になってますけども、あそこはたまたま私どもの卒業生でもある中村ブレイスっていう義肢、義足の会社の社長さんが1人で、自分の自腹も切りながらあそこまで持っていかれたんですね。ですから市、県も頑張ってくださいということも必要なんですけども、どれだけ市民が汗かいてるか、お金集められるかということも非常に重要かなと思いますので、そういうみんなが協働で動いてるよっていうことが多分イコモスとかユネスコへのアピール力となってくると思いますので、そこはまた、先ほどプラットフォームビルダーの話もありましたけれども、協力関係をぜひとも結んでいただければというふうに思います。

他はいかがでしょうか。何度も同じ話を前回までもしてますけれども、やはりこれは総合戦略ですので、総合計画とは違って満遍なく書くのが目的ではないわけですね。やはりとんがって、これを頑張っていこうじゃないか、これを使って日本中、世界中に檀原をアピールしようじゃないかっていうところが重要なので、それを本当に絞って絞って書いていくっていうことも重要かなと思いますので、またワーキングの中でも何が絞り込めるのか、絞った限り、書き込んだ限りは5年間で動かすっていう、いわゆる覚悟ができるのかなんのかっていうことをもっと考えていただければと思います。

最近の話題で言うと、今、淡路島の生パスタっていうのが、日本中のおいしいスパゲティ屋さんが使うようになりましたね。淡路麺業という本当に昔、小さな製麺工場だったんですけども、今、本当に日本中に淡路麺業のパスタが広がっています。これが1つ、すごい

いい事例なんですよ。いいものをつくってうまく PR さえできれば、このネット社会ですから、もうたちまち有名になっちゃう。ここをどういう形にするのか。前々から申し上げてますように、橿原は光るものがいっぱいあるんですよ。そこをどうやって、より磨いてアピールできるのかっていうところですね。ここら辺の戦略をぜひとも考えていただければというふうに思いまして、皆さま方のほうからもアイデアを出していただければと思います。

もう1つお話をするならば、近畿大学はその辺りのアピール、この10年間どんどんしていただいて、着実に受験者数を伸ばしていますけれども、その1つはやはりホームページをいかに充実していくかっていうことですね。初場所で徳勝龍が優勝しましたけども、もう早速、徳勝龍を使わせていただいて、また近大卒業ですよっていうことで人目を引くという、何かあったらすぐにホームページに載せて、そして近大関係者ですよっていう形でお披露目をしていくわけですね。

徳勝龍はご承知のように奈良県奈良市の出身でございますので、それも九十何年ぶりの奈良県の出身力士の優勝力士になっておりますが、今、奈良県のホームページ、それから奈良市のホームページを拝見したんですけど、もっと表に出していったほうがいいんじゃないかなっていうふうに思ってます。そういう意味ではすぐに更新できて、ちょっとしたことでも、さもすごいことのようにアピールできるようなホームページ、こういうものを構築できるかどうかっていうのも重要ですので、その広報戦略も市の総合戦略の中に位置付けておいていただければというふうに思っております。

ちなみに、こういう最新ニュースは即座に載せられるシステムというのが橿原市役所はできてるのでしょうか。

福西部長

すいません。総合政策部の福西と申します。今、久会長の方からホームページの更新の話があったと思います。今、市のホームページの方ではコロナウイルスの関係の事案があって、今、ホームページをご覧くださいと一番トップの画面のところをそれをご覧くださいとすることができますが、そこをクリックいただきますと、より詳細な情報に移っていくというような形にはさせていただいております。比較的早くそういう形のホームページにできるという体制にはなっております。

久会長

ちなみに今日、私の情報も近大のホームページのトップのところ載っているんですけども、実は今日の夕方にある毎日放送の「ミント！」に私のコメントが紹介されるんです。土曜日の午後にインタビューを受けて夕方に、2月の6日の夕方の「ミント！」に久教授がコメントを出しますみたいな、もうすでに2時間後ぐらいに載るんですね。こういうような迅速さですよ。それからアピールできるものを載せておく。どうしても市役所っていうのはそれが苦手なんです。やはり公平性の問題や、きちんとした正確な情報を流したいっていうようなことになってくると、なかなかアピール度が下がってくるので、その工夫ですね。

ですから、生駒なんかうまくやってるんですけども、総合戦略用のホームページを別途

立ち上げて、そこを市役所のホームページからリンクできるような形で切り分けたほうが、ひょっとするとアピール度の高いホームページができるかもしれませんので、そこをまた総合戦略の中にそういう、どうやってアピールするかっていう戦略もしっかりと位置付けておいてほしいなと思います。

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、これもまた何か思い付いた、ひらめいた段階で事務局の方にお届けいただければと思います。今日はいろんなお話をさせていただきまして、ちょうど2時間たちましたので、これでいったん閉めさせていただければというように思います。それでは事務局のほうにお返ししますのでよろしくお願い致します。

3 閉会

事務局

皆さま、長時間にわたるご審議ありがとうございました。貴重なご意見をたくさん賜りまして、本当にありがとうございます。今後もしご意見等ありましたら、メール等でもお電話等でも構いませんのでご意見いただけたらと思います。以上で本日の審議会で予定しておりました案件は全て終了いたしました。本来であれば今回をもって総合計画の策定を終えているところではありますけれども、スケジュールの説明でも申し上げましたとおり、諸般の事情により審議会を2回程追加させていただきたいと考えております。

次回の第6回の檀原市総合政策審議会については4月下旬から5月初めを想定しております。後日、日程および開催場所について調整させていただいた上で、あらためましてご案内を送付させていただきます。後日、日程調整のメール、文書等をまた送らせていただきますので、ご回答の方をよろしくお願いいたします。委員の皆さまにおかれましては大変お忙しいところ申し訳ありませんが、ご出席、ご審議をよろしくお願いいたします。

以上